

貞觀七年

乙酉

紀元一五二五

三月九日。太政官、中國たる能登に介を新置せんことと奏請す。

【類聚三代格】

一〇

太政官謹奏

加置諸國介掾事

甲斐國 周防國

右上國。今置介。

能登國 丹後國 石見國 長門國

土左國 日向國

右中國。今置介。

飛驒國

右下國。今置掾。

以前謹案令條、上國有介、中國無介、下國無掾。今件等國、或前爲上國、未備介職、或國務稍繁、官員猶少、或長官有故、主典執印。論之政途、事非穩便。伏請、甲斐周

防新備介職、自餘中國同置介、下國又置掾、以適變通。但至安房若狹波大隅薩摩志摩等國、雖有中之名、又不足備介掾職、仍不入此等例。臣等商量、具件如前。伏聽天裁、謹以申聞謹奏。

貞觀七年三月九日

聞。

(續日本紀に據るに、能登國は養老二年五月二日越前國羽咋・能登・風至・珠洲四郡を割きて創置したるものとし、その後天平十三年十二月十日に至り越中國に併合し、更に天平寶字元年五月八日之を分立したるも、是等に關する太政官の論奏を傳ふることなし。)

貞觀八年

丙戌

紀元一五二六

三月七日。太政官符を下して、能登等の中國に新置せる介の公解・公解田・事力の分法を定めしむ。

【類聚三代格】

一一

太政官符

應定新置介掾公解田事力分法事

甲斐。能登。丹後。石見。周防。長門。土左。日向。

右八箇國介。公解四分。公解田一丁六段。事力五人。

飛驒。

右一國掾。公解三分。公解田一丁三段。事力四人。

以前得能登國解備。被太政官去年六月二日符備。依太

政官去三月九日奏。新置介員。延曆十二年二月十五日格

云。和泉伊豆甲斐安房能登石見周防淡路阿波土左等國司

公解。守五分。掾三分。又案令云。公解田。大國守二丁六

段。上國守大國介二丁二段。中國守上國介二丁。下國守大

上國掾一丁六段。中國掾大上國目一丁二段。中下國目一

丁。軍防令云。給事力。大國守八人。上國守大國介七人。

中國守上國介六人。下國守大上國掾五人。中國掾大上國

目四人。中下國目三人者。案件格令。未見中國之分法。

謹請官裁者。官制。新置介掾諸國。宜同依件行之。

貞觀八年三月七日

寬平六年

甲寅

紀元一五五四

七月十六日。太政官符を下して、加賀・能登等の諸國をして諸院宮使等が往還の船車人馬を強雇するを禁ぜしむ。

【類聚三代格】

一二

太政官符

應禁止諸院諸宮諸司諸家使等強雇往還船車人馬事

右得上總越後等國解備。得諸郡調綱郡司并雜掌綱丁等

解備。進上調物以駄爲木、運漕官米以船爲宗。而上道

之日、前件諸院等使、結黨路頭追妨駄馬、率類津邊覆

奪運船。於是有心逐馬、無顧收荷、官物致次失之煩、

綱領陷逗留之責、加之部内百姓差預綱領之日、若此濫惡

逃竄他境、國之弊亡莫過斯焉。望請、下知路次諸國、永

休民愁。謹請官裁者。大納言正三位兼行左近衛大將皇太

子傳陸奥出羽按察使源朝臣能有宣。如此之事格制先立、